阿賀野の偉人

アメリカ移民の父

安孫子久太郎（あびこきゅうたろう）を知ろう

Ⅰ 久太郎の生涯

アメリカで日系人社会の草分けとして活躍した阿賀野市出身の日本人がいました。

安孫子久太郎は、1865（慶応元）年に水原地区の外城に生まれました。

久太郎は18歳の時に上京し、働きながら学び、1891（明治18）年にキリスト教福音会の就学生としてアメリカのサンフランシスコに渡りました。この頃アメリカでは、低賃金で働く日本人に仕事を奪われることなどを心配し、日系人排斥の動きが高まってきていました。

渡米後の久太郎の活躍は、初期日系人社会の形成、在米福音会の発展、日系人排斥運動への対抗、邦字新聞の発行など多岐に渡りました。生涯人道主義を貫き、信心深いクリスチャン、新聞人、実業家として在米日本人に慕われました。

1936（昭和11）年、71歳で亡くなり、アメリカカリフォルニア州の日本人墓地には顕彰碑が建てられています。

安孫子久太郎
（1865～1936）

Ⅱ 妻は津田梅子の妹

また、久太郎の妻となる須藤余奈子（後の安孫子余奈子）は、女子英学塾（現在の津田塾大学）を創設するなど、近代的な女子高等教育に尽力し、新五千円札の肖像にも選ばれた津田梅子の妹であり、女子英学塾で梅子の傍らで働いていました。1908（明治40）年に帰国中の久太郎と出会い、翌年、結婚し渡米します。

安孫子余奈子
（1880～1944）

渡米後は久太郎の事業に関わるほか、サンフランシスコ日本人キリスト教女子青年会の開設に貢献します。資金難に陥った際には、帰国し、新渡戸稲造からあっせんをうけ、渋沢栄一、大倉孫兵衛などの財界人から寄付を集めました。

関東大震災で女子英学塾が倒壊した際には校舎再建のためアメリカで寄付金を集めました。この頃は移民排斥が激しくなりつつありましたが、人と人とのつながりが大事と社会に働きかけました。

日系移民排斥があった時代を乗り越え、二人の功績は今日に至るアメリカ日系社会の礎となっています。

アメリカカリフォルニア州にある
安孫子久太郎顕彰碑

【参考文献】
・水原町『水原人物風土記』平成16年1月発行
・鈴木麻倫子（京都女子大学）「安孫子家文書から見る安孫子久太郎と須藤余奈子の出会い」平成28年3月発行、「安孫子家文書から見る桑港日本人ＹＷＣＡの設立過程」平成29年3月発行
・須田満「翁久允『安孫子久太郎翁と私』―自筆原稿の翻刻と解説」富山文学の会『群峰 第6号』令和3年4月発行

■この記事に関する問い合わせ
生涯学習課 文化行政係
☎62-5322